

I 神への賛美の前に、先行する三位一体の神の恵みを覚えたい。

- ①父なる神の創造、選び、私達への大きな愛。
- ②御子イエスの十字架の血による私達の罪の完全な贖い（永遠の滅びからの買戻し）、償い。完全な罪の赦し。
- ③御霊なる神の内住による罪の自覚と主への信仰。神との交わり、人との交わりを生み出される。御霊に満たされるととき生まれる愛と賛美。

II 三位一体の神の恵みの目的。

「それは、神の栄光が、ほめたたえられるためです」1：6、1：12、1：14。

神の恵みを知ると神をほめたたえたいくなる！

- ① 神への賛美とは、神の素晴らしい恵みへの私達の感謝の応答。神の御性質、神の御業をほめたたえる事。  
神への賛美は、
  - i 神ご自身が命じられたもの。詩篇81：1-4。ヘブル13：15。
  - ii 神が授けて下さるもの。詩篇40：3。
  - iii 神の御性質と御業を描写しつつ称賛するもの。信仰告白。それ故に、歌詞が非常に大切。歌詞の意味を味わう。神理解が深まると、賛美も成長する。
- ② 神をほめたたえ、神を礼拝するとは、神の恵みへの感謝、神への応答として自分自身を神にささげる事（ローマ12：1）。  
礼拝とは、神に最高の価値を認め宣言する事。  
英語の「worship」は、「WORTH」（価値）と「SHIP」の合成語。つまり、礼拝とは、最高の価値を神に帰する事。  
「ほふられた小羊（キリスト）は、カと富と知恵と勢いと誉と、栄光と賛美を受けるにふさわしい（WORTHY）方です」黙示録5：12。  
※私達は、本音で価値を認めているものに自分を費やす。私達の価値観は？神にか、それとも別のものに最高の価値を置いているか？
- ③ 私達が造られ、救われ、愛されている目的は、私達を造り、救い、愛されている神を、私達が賛美し礼拝し、日常生活の中で、神の栄光を現わす事。I コリント6：20、10：31。

III 前節の「御霊に満たされなさい」とのつながり。相互作用。

1.：18の「御霊に満たされなさい」と言う命令にかかる動詞分詞→

「詩と賛美と霊の歌とをもって、互いに語り（つつ）」「賛美し（つつ）」：19「いつでも、すべてのことについて神に感謝（しつつ）」：20「キリストを恐れ尊んで互いに従い（つつ）」：21。

つまり、：19-21の主の喜ばれることを御霊によって行いつつ、御霊に満たされる。

2. また、まず御霊に満たされる時（まず神の恵みを受ける、自覚する時）、その結果。

- ①：19、20＝神への賛美、感謝。
- ②：21-6：9＝人間関係の御言葉（主の御心、主の喜ばれる事）を実行できる。御霊なる神は、私達の素晴らしい助け手。

#### IV 「詩と賛美と霊の歌とをもって」：19。

1. 「詩」の原語：プサルモスは英語の Psalm (詩篇) の語源。

詩篇の一篇。「詩篇」(ルカ20:42、24:44、使徒1:20、13:33)。

2. 「賛美」=原語：ヒュムノス、頌栄歌、賛美歌。英語はhymn。

動詞「歌をもってほめる、賛美する」からできた語。

3. 「霊の歌」。聖霊による信仰的感動により生まれた歌。

私達は、詩篇や讚美歌(これまで生まれた賛美)や聖霊による信仰的感動により生まれた新しい歌(これから生まれる歌も)を用いて心から神を賛美したい。詩篇149:1。

大切な判断基準は、歌詞が、御言葉の教えと合っているか。賛美の土台は、御言葉。エペソの「御霊に満たされなさい」の並行箇所のコロサイ3:16は、「キリストのことばを、あなたがたのうちに豊かに住まわせ…心から神に向かって歌いなさい」。神ご自身の御性質(偉大さ・聖・愛)をたたえるのにふさわしいかを御言葉で判断する。御言葉で神を深く知る分、神への賛美、賛美の歌詞も深まる。

4. 詩と賛美と霊の歌とをもって、「互いに語り」→噂話、陰口、悪口ではなく、神を賛美しつつ、お互いに神の素晴らしさを語る。主の素晴らしさを物語るように歌う。

5. 「主に向かって」。人に向かってではなく。歌集に向かってでもなく。

「歌集の〇〇番を賛美しましょう」ではなく、「歌集の〇〇番をもって、主を賛美しましょう」が正しい。

歌集に向かってではなく、私達を造り、命を与え、救い、愛しておられる偉大で聖なる主に向かって。

心のこもった賛美を喜び、聞いておられる生ける主、共におられる主に向かって!

礼拝でも、日常の生活でも。車の中でも、歩きながら、皿を洗いながら、掃除をしながらも。主を賛美していると、主の臨在を感じる恵みがある。

6. 「心から」。真心こめて。他の事を考えて、心ここに非すではなく。

神は、口先だけではなく、心をご存知。

「この民は、口先ではわたしを敬うが、その心は、わたしから遠く離れている」マタイ15:8。

私達を、心から、真心込めて愛しておられる主を私達も、心から愛して心から主を賛美したい。

声や楽器の音、演奏に、心が伴っている事を主は喜ばれる。主の事を、心で深く思い感謝しながら。

「歌い」=黙示録15:3。

「また賛美しなさい」。原語：弦楽器を弾く。賛美する。賛歌を歌う。

ローマ15:9、Iコリント14:15。ヤコブ5:13。

「弦をはじく、弦楽器をひく、器楽演奏をする」の意。素晴らしい主を、歌声、そして色々な楽器(角笛、十弦の琴、立琴、タンバリン、踊り、緒琴、笛、シンバルで神をほめたたえよ。詩篇150篇)を用いて主を賛美する事を主は喜ばれる。

※私の夢、ビジョン。もし声が出なくなっても、神が与えられた体、すべての機能(手話、手、足、踊り。

詩篇149:3、まばたき、表情、絵等)を神に奉げ、聖別していただいて、神の為に用いて主を賛美することができる。それこそ、神の救い、愛に心から感謝して、自分のからだを、ささげる礼拝です。

「あなたがたのからだを、神に受け入れられる、聖い、生きた供え物としてささげなさい。これこそ、あなたがたの霊的な礼拝です」ローマ12:1。

「あなたは聖であられ、…賛美を住まいとしておられます」詩篇22:3。

神は、私達の神への賛美を喜び、それを住まいとされ、臨在される。神を心から賛美する時、神が、共におられる事を感じる!最高の幸せ、喜び!

「主を喜ぶことは、あなたがたの力であるから」ネヘミヤ8:10。

主を喜び賛美することは、私達に聖なる力を与える!

ハレルヤ!